

平成 26 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組  
放送日：平成 26 年 11 月 26 日 (水) 17:20~17:35 (塩竈一常 GET KING!!)  
(再放送：11 月 30 日 (日) 9:10~9:25 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 10 回放送 両磐ブロック高齢者福祉協議会 熊谷茂 会長

(聞き手：FM あすも 塩竈一常)

**塩竈** 「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」一関市では高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう医療から介護への切れ目ないサービスを目指しています。このコーナーでは、医療機関や介護施設の役割、利用方法を医療、介護、福祉の関係者と市民がともに理解、協力することを目的に一関市健康づくり課の提供でお送りします。

**塩竈** 今日スタジオには両磐ブロック高齢者福祉協議会の会長、更に特別養護老人ホーム明生園の園長でもいらっしゃいます熊谷茂さんをお迎えしました。熊谷さん、よろしくお願います。

**熊谷** どうぞよろしくお願いいたします。

**塩竈** 熊谷さん、まずはですね、この両磐ブロック高齢者福祉協議会、この協議会というのはどんな活動をされている集まりなのかというところから教えてください。

**熊谷** 一関市内の社会福祉法人が経営する特別養護老人ホームや養護老人ホーム、ケアハウス、そういった団体に組織しているのが、両磐ブロック高齢者福祉協議会になります。

**塩竈** その組織の皆さんというのは、何人くらいの体制になるんですか。

**熊谷** 21 団体が入っていますけれども、関連事業全体入れると 50 を超えると思います。

**塩竈** そうなんですか。今、福祉、それから介

護というのを取り巻く環境というところでは、様々な課題であったりとか、それから皆さんが経験してきた知恵というものがいろいろと集まるかと思うんですけども、協議会の中では特にどういった分野の話し合いというのが普段行われるんでしょう。

**熊谷** 今は年 1 回職員を対象とした研修会を行っております。日頃、いろいろな介護の活動をしている実践報告もしますし、それから相談員、管理栄養士、そういった職種間の分科会も行います。

**塩竈** こういった分野の講義を受けるとなると、それぞれの福祉施設個別でそういった講師の方を招くっていうのは、なかなか大変だと思いますので、協議会でお呼びして、研修をするということですね。お聞きしましたら、去年は先生をお迎えして、このいろいろ市内外からたくさんの方が集まったイベントがあったそうなんですが。

**熊谷** 「平穏死」のすすめの著書で有名なドクターで石飛幸三先生がいますけれども、その方は、延命のために胃に穴を開けて栄養を入れて、それで良いのかと、老衰末期の人に対して、それはいかなものかという警鐘をならして、実は、我々の特別養護老人ホーム、一関ばかりじゃなくて全国的にそうなんですが、老衰末期の方々を鼻から栄養を入れる、胃から栄養を入れるということで、可能な限り長く生きてもらうということでやっていたけれども、それらも本人が望んでやっているわけではなくて、家族や周りの方々が少しでも長く生きられるよう

にということです。それについて石飛先生が、それはそれで良いんだろうけれども、もう一度原点に立ち直って考えてみないかっていうことを、我々団体ばかりじゃなくて市民の方々にも一緒に考えていただく機会にさせていただければと思って開催しました。

**塩竈** 終末期医療ですとか、それから、また介護というところ、実際にその現場にいる皆さんから感じるこっていうのは、その講師先生にとっても何かいろいろ新鮮に感じたりとか、いろんな情報交換の中ではすごく役に立つことっていっぱいありそうな感じがしますね。

**熊谷** そうですね。実際に我々は、24時間365日、重度の方々をお世話させていただいてますから、そういった中で看取りまでしますので、いろいろな思いが交錯しながら、先生のお話を聞かせていただきました。それが今いろいろなところで、協議したり議論したりして行っている途中になります。

**塩竈** この他にも、去年は、自立支援介護を実践されております静岡県の特別養護老人ホームの施設長の方をお迎えしまして講演もあったそうですね。

**熊谷** 特別養護老人ホームを利用している人は、介護度で言えば4、5ですので、多くの方々は、食事も排泄も入浴も着脱もできないということで、普通の寝たきりと言われていましたけれども、やはり、寝たきりの人でも、できるだけオムツを外してポータブルトイレ、あるいは、便座に座らせるということが非常に大事ではないかと、実際に今、全国の協議会でも特養のお年寄りをオムツゼロでやっていこうという全体的な取り組みをしていましたので、その中でも、静岡の施設が50名定員ですけれどもオムツがゼロなんです。それ5年間続けましたので、果たしてできるものかどうかっていうものを、実際にその施設長に聞いて、それでいろいろと教えていただきました。そういう機会に両磐ブロックの特養もそうですが、可能な限りトイレで、ポータブル便器でということで、オムツ外

しに取り組んでいます。

**塩竈** そうなんですね。実際にその現場で働いている皆さんというのは、全国各地の先進的な例というのを学ぶことで、自分たちの施設に合わせた工夫というところにつなげていく、そのきっかけにもなりそうですね。

**熊谷** やっぱり、食べさせて、お風呂に入れて、オムツを取り替えてっていう、それだけがお年寄りの生活ではないので、やはり、人間の尊厳を考えた自立支援をやはり積極的にやるべきじゃないかということで、全国の情報を取り入れて、それを会員施設に流すようにしていました。

**塩竈** こういったセミナーですとか研修を受けた皆さんの感想とか熊谷さんには届いてますか。

**熊谷** 自分自身が、全国の研修委員をずっと8年程やっていたので、全国のいろいろな研修会で講師の先生方の話を聞く機会がたくさんあるので、その中自分なりに選択して、一関に来ていただいて、先進的な事例をあるいは、いろいろなサービスの質の向上のための話を聞く機会を作るようにしていました。

**塩竈** なるほど。サービスの最前線に当たっている仕事をされている方だけではなくて、やはり、市民の皆さんとか、普段からこういったところに顔を出して、いろいろな現状を知っておくってというのはすごく大事なことですね。

**熊谷** そうですね。あとは、この医療と介護の連携連絡会の中でも研修会がありますので、その時に実践報告をさせていただいたり、そうしますと一般の方々も聞いてくれますので、実際、特養ではこういうことが行われているんだなという理解の一助になっていると思います。

**塩竈** 両磐ブロック高齢者福祉協議会で行っている取り組みについて、まずお話を伺ってきました。さて、熊谷さんは、番組冒頭でも紹

介しました特別養護老人ホーム明生園の園長でもいらっしゃるということなんですけれども、現在、この特別養護老人ホームという施設ですね、これを取り巻く環境について今日はちょっとお話しを伺っていきたいんですが、まずは、この特養で待機している方の数というのはどんな感じなんでしょうか。

**熊谷** 自分の法人で今、特養3つ持っておりますけれども、多い特養ではもう300人超える待機者を持っています。他の2つの特養も100人を超えていますので、ダブル・トリプルで掛からない人を含めると500人位はいるんじゃないかなと。実際一関市内の特養待機者は900人を超えていますので、それもこれもやはり家族で介護できない、地域で看れないという状況が続いていると思います。

**塩竈** これから先の人口の動きとかを見ていくと、この待機者の数というのがより増えていくのではないかという想像がつくんですけども、コーナーが始まる前に熊谷さんとお話をしておりましたら、それを介護する人材ですね、その人数というのも大変不足しているって現状があるそうですね。

**熊谷** 今、岩手県の介護人材の求人倍率が1.4くらいになっています。それが、東京・神奈川・千葉になると3倍から4倍になっています。本当に施設やいろいろな介護サービス事業を立ち上げても、それを支えてくれる人たちが少ないんですよ。よくテレビでは、給料が安い、汚い、キツイという3Kを取り上げていたものもありましたけれども、やはり、これから高齢化率が30に40に上がっていく時に、やはり、介護サービスがもっともっと充実していかないと家族の負担になりますので、要は増やすんですが、何しろ介護の専門学校の方でさえも定員割れをおこしていましたので、この間、大学に行った時のディスカッションでは、介護専門学校を辞めるところもいっぱい出てきていましたので、実は、国では2025年、いわゆる団塊の世代が後期高齢者になる時には、更に介護員が100万人必要だというシナリオは出しているんですが、そ

れに対する人材を確保するだけのグランドデザインがあんまりないので、この調子でいくと、もう田舎もですし、都会もサービスはあっても職員がいないということが続くと思います。

**塩竈** 実際に介護というところに目の当たりにする世代よりも、もっと若い世代のうちからこういった介護というところに興味を持つのも勿論そうなんですけれども、いずれ自分のところに関わってくるものだっていう問題意識というのをしっかり持ってもらうということがすごく大事ですね。

**熊谷** そうですね。やはり、子供の時からの福祉教育が必要ではないかと。それを大学出た社会人になって、じゃあ介護を目指しなさいって言っても、そう簡単にできるものじゃなくて、やはり、ちっちゃい時からおじいちゃん、おばあちゃんと触れ合う、あるいは福祉施設を訪問する、そういうきっかけがあって、じゃあ自分も福祉を目指そうか、医療を目指そうかとなるんですが、そういう機会が今ないんですよ。だからやはり教育の中に福祉を取り入れることが一番大事だと思います。

**塩竈** また、市民である私たちの中でもこういった感じを取り巻く環境というのをこの福祉協議会の皆さんだけにお任せするんじゃなくて、積極的にこういったところにも関わって行って自分たちも1つのそのまちづくりの中で必要な存在なんだっていうこと知っておくっていうのも大事ですね。

**熊谷** そうですね。介護人材が足りない足りないって言って、じゃあ、一法人だけで努力して集めればいいっていう問題ではなくて、やはりこれから高齢者がいっぱい増えて行って、そして支えなければならぬっていう互助共助の気持ちで、やっぱり一緒に協力していただきたいなと思いますね。

**塩竈** ここまで介護人材の不足、取り巻く環境についての話なども熊谷さんに伺ってきました。さて、今日は両磐ブロック高齢者福祉協議会に

ついでにお話を伺ってきているんですけども、「防災協定」というのが、至る所と結ばれているというこういったお話も伺っているんですが。

**熊谷** 3年前の3.11東日本大震災の時に、本当に内陸はまだ良かったんですけども、沿岸にある特別養護老人ホームとか津波で全壊して、たくさんの方々が利用者、職員が亡くなりました。そういった時に助けてあげたい、でも現地に行けない、どうなっているかさえも調べる手段がない。そういう時に、我々は、県を通じてSOSもきて、応援には行きましたけれども、やはり、今の災害というのは、地震や津波ばかりじゃなくて、広島であるように土砂崩れだったり、川が氾濫したり、台風だったり、竜巻だったり、いろいろありますよね。そういうことを考える時に同じ両磐の中でも、あそこで川が氾濫して大変だったという時に、その災害を受けていない所の施設が行って、人を出す、物を出す、あるいは被害を受けているお年寄りを受け入れるとか、そういったきめ細やかな協定を作って契約を結びました。ただ一関、両磐だけがそういった協定を結ぶのでは効果がないということで、今回、沿岸ブロック、両磐ブロック、県北ブロック、中央ブロック、県南ブロックと5ブロックで広域的な災害協定を結びました。ですから沿岸が大変な状況になっている時は、両磐ブロックの職員で人・物・金を出すと、あるいは沿岸ブロックがやられている時は県南ブロックから出すと、そういうきめ細やかな協定書を結んでいますので、それがもう発足していますから万全だと思います。あと両磐ブロックでも、来年の1月から防災会議を開きますので、図上訓練始め、その他の訓練まで発展させていく予定です。

**塩竈** 介護を利用されている方へのサービス、その質の向上はもちろんなんですけれども、それだけではなく、そこで働く皆さんの環境であったりとか、それから、そういった福祉・介護というのがしっかりといざという時でも成り立っていくってところ、いろいろな分野での取り組みをされているってことが今日は伝わってまいりました。今日は「医療と介護の窓

～みんなで育てよう地域医療～」のコーナー、スタジオに両磐ブロック高齢者福祉協議会の熊谷茂会長にお越しいただきましてお話を伺ってきました。熊谷会長、どうもありがとうございました。

**熊谷** 今日はありがとうございました。

**塩竈** お聞きいただきましたように、一関では高齢化が進む中、住み慣れた地域でみなさんに安心して暮らしてもらいたい、そんな思いから医療から介護へ切れ目ないサービスを目指しています。介護の分野の中での取り組みについて今日はお話を伺ってきました。このコーナーでは、医療機関、また介護施設の役割、利用方法など関係者の皆さんはもちろんなんですが、市民である私たちがともに理解、協力していくこれが大事だということで、皆さんに様々な情報をお伝えしています。地域の医療体制、介護体制の充実のため、私たちも積極的にこの取り組みに関わっていきましょう。「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」このコーナーは一関市健康づくり課の提供でお送りしました。